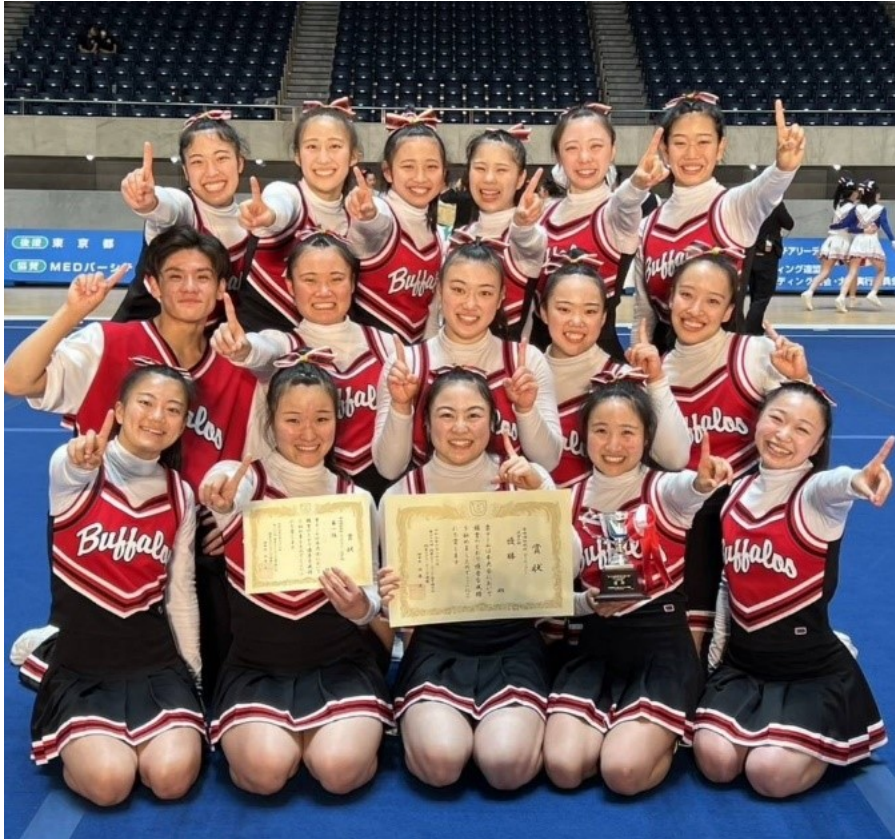


## 帝京大学 圧巻の演技で総合優勝

### 第26回関東チアリーディング選手権大会 兼日本選手権大会関東地区予選



第26回関東チアリーディング選手権大会 兼日本選手権大会関東地区予選が国立代々木競技場 第一体育館で6月21日から23日の3日間で行われ、全地区で最大となる215チームが出場した。

大会結果詳細についてはホームページをご覧くださいと思う。

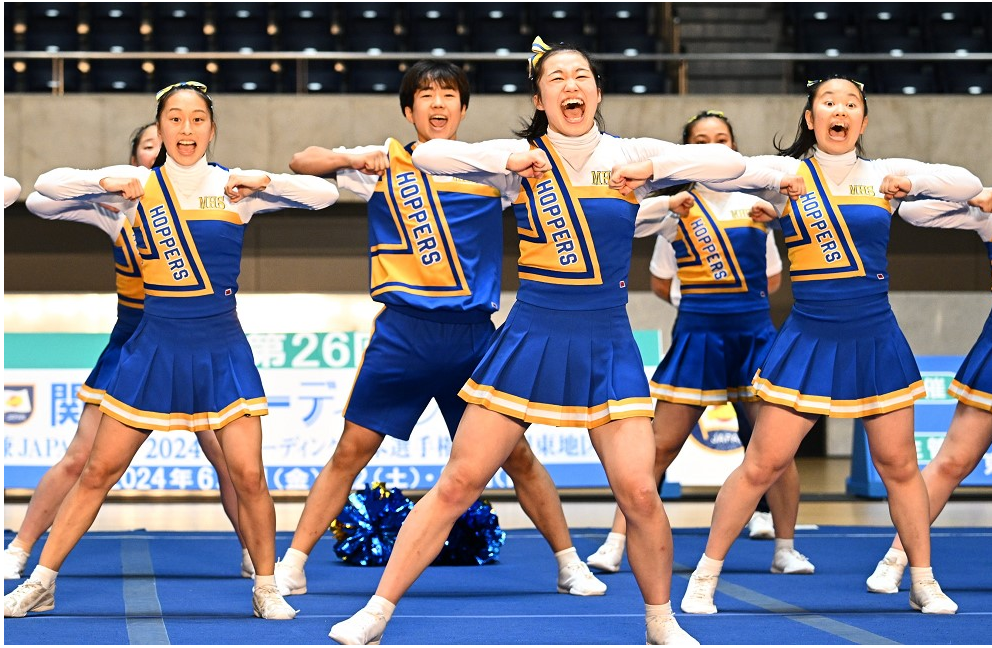
各カテゴリーには、難易度の追及とともに完成度と実効性の高さを伴った演技を披露したチームが出そろったのではないだろうか。

圧巻は大学の部の帝京大（東京都）である。現在の採点基準における最高難度の技を、一番難しい局面に配置し、完璧な実行性、完成度で成功させた。どの出場チームも実施する技の難易度設定は十分研究し構成を組むものだが、帝京大学のオリジナリティある演技展開と質の高い演技に魅せられた。

大学の部では、優勝した帝京大とともに昨年大会優勝、今大会で準優勝を果たした日本体育大（東京都）の演技前の応援合戦が非常に興味深かった。演技順が先の日本体育大の演技前には、「NSSU 日体（ニッタイ）VORTEX」の応援コールが響きわたり、次の帝京大の演技前には、彼らが応援活動を行っている部活動の男子選手たちが観客席から「BUFFS Let's Go BUFFS」と音頭をとった。

チアリーダーたちは日頃より、スポーツ応援や地域貢献として、大会やイベントなどで、人々を励まし応援する活動を行っているが、大会の演技中は自身が主役となり、応援される立場となる場所でもある。会場で送られる大きな声援日々の彼らの努力の証であると思い、非常に嬉しく感じた瞬間であった。

高等学校の部ではパワーと美しさを兼ね備え、高等学校の部で優勝を飾った千葉明德高をはじめとし、魅せること意識した演技が多くみられたことは、チアリーディングの表現性のさらなる高まりを感じた。



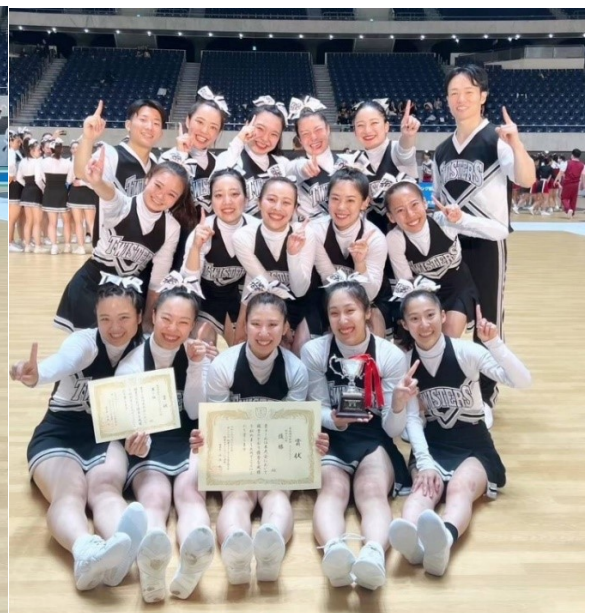
また、日本におけるチアリーディングでは圧倒的に女子選手数が男子選手数を上回っているのが現状であるが、今大会では男子選手の活躍が目立った。高等学校の部では、千葉明德高（千葉県）、正智深谷高（埼玉県）、市立高津高（神奈川県）、県立百合丘高（神奈川県）、羽田国際高（東京都）、横浜富士見丘学園高（神奈川県）において男子選手が活動、社会人の部ではチアリーディング BUBBLES（東京都）、クラブチームツイスターズ（東京都）、チアリーディング REGULUS（神奈川県）、N・C・A Cheerleading Team（東京都）が男女混成部門でエントリーしており、今後の男子選手のパワーを生かした演技が期待できる。

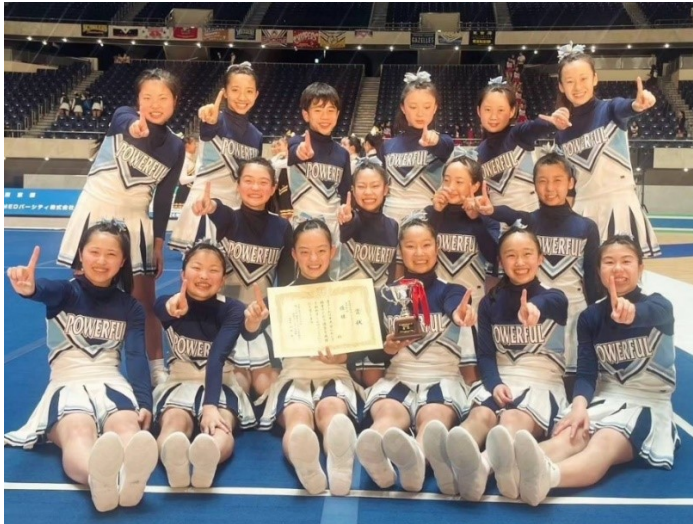
そして最後に、羽田国際高のドラマを。

本番演技途中で怪我が発生し演技中断となった羽田国際高。競技規則上、怪我による演技中断の場合、再演技は認められないが、選手たちに競技本部よりエキシビションであれば再演技が可能との連絡が入った。もちろん、「やらせていただきます」。場内アナウンスで再演技実施が放送されると会場から拍手が起こり、まさに会場が一つになった瞬間であった。競技の先に存在するチアリーディングの心を共有したのではないだろうか。競技本部の皆様、教育的な計らいに脱帽である。昨年話になるが県立生田東高（神奈川県）が2名でエキシビションにエントリーしていたが、1名が体調不良により当日不参加となり、本来であれば認められていない1名での演技実施が許可され、発表したあの時を思い出した。

羽田国際高は JAPAN CUP の敗者復活戦への挑戦が認められたという。

JAPAN CUP にはフライデートーナメント、敗者復活戦という枠があり、多くのチアリーダーの希望の光となっている。強豪チームは元より葛藤と課題解決の努力を乗り越えたすべての演技に大いに期待したい。





本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.